

令和7年第3回定例教育委員会会議録

1. 開催日時 令和7年3月12日(水)
午後3時00分～午後4時30分
2. 開催場所 柏原市教育委員会 会議室
3. 出席した委員
教育長 新子 寿一
教育長職務代理 田中 保和
教育委員 西村 弥生子
教育委員 太田 貴之
教育委員 田辺 恵美
4. 出席した職員
教育部長 桐藤 英樹
教育監 安田 典子
教育総務課長 稲山 佳史
指導課長 小室 吉昭
学務課長 北野 典子
事務局教育総務課 塩谷 行由
5. 議事案件
議案第3号 令和6年度かしわらっ子はぐくみテストの結果の公表内容について
議案第4号 令和6年度中学生チャレンジテスト(1、2年生)の結果の公表内容について
議案第5号 令和7年度柏原市立学校園管理職人事について
6. 報告事項

7. 会議録の承認及び会議の要旨

新子教育長：お揃いでございますので、令和7年第3回定例教育委員会会議を開会します。

本日の会議録署名委員は、太田委員にお願いいたします。次に、事前に送付させていただいております会議録につきまして、ご意見等ございませんか。

委員全員：なし。

新子教育長：それでは、会議録は承認することにいたします。本日の議事に入っております。本日の議事案件は3件です。どうぞよろしくをお願いいたします。それでは、議案第3号につきまして、指導課小室課長より説明をお願いします。

小室課長：議案第3号令和6年度かしわらっ子はぐくみテストの結果の公表内容について、指導課よりご説明申し上げます。まず資料についてですが、全国学力状況調査と同様に、A4横の「結果概要」と、これまでのように詳細を記した冊子「結果に関する参考資料」として作成しました。なお、「結果に関する参考資料」は、概要版の下に記したリンクから見られるようにいたします。

それでは、まず概要版を使って説明いたします。調査目的及び調査対象学年はこれまでと変わりはありません。各学年400から500名程度です。各教科の平均正答率といたしましては、全国実施校と比較し、おおむね同程度ですが、3年算数、6年算数に課題が見られます。同一集団の経年変化では、5年生の国語、6年生については、2教科とも下降している状況です。

同一学年の変化では、5年の算数以外は、いずれの教科においても下降しています。こちらの詳細は、参考資料2ページから3ページの教科概要で、教科ごとの正答率分布とカテゴリー別結果を示しています。

概要に戻り資料1の右、アンケート結果をご覧ください。こちらは青マルに赤線が柏原市の結果になります。全学年に共通してみられる特徴としては、「周囲の支えや充実感・向上心」「授業で対話的な学びの機会がある」「学級の雰囲気」の項目において肯定的で、「学習習慣」のスコアが全国と比較し、下回っております。

質問としては、「テストで間違えた問題は、あとでやり直していますか」や「学校の授業以外で、週に何日ぐらい勉強していますか」などになり、全国学力状況調査と同じような結果となっており、本市の課題があらわれております。参考資料としては、4ページに掲載しております。

概要版、一番下の平均正答率との相関関係を6年生で見ました。5年生も同様の傾向がありますので、6年のみ掲載しております。こちらは、参考資料の5ページを使ってご説明します。ご覧ください。肯定的に回答している児童ほど平均正答率が高い傾向にある質問を抽出しております。傾向と申しますのは、統計学的な処理を行っていないので、傾向としています。

グラフの見方ですが、自己肯定感の欄をご覧ください。平均正答率を上位から4等分し、それぞれA、B、C、Dとします。A層が正答率の高い集団となります。自己肯定感の質問内容は、「学校の授業やクラスの役割などで、自分は先生から期待されているんだな、友だちからたよりにされているんだなと感じることがありますか」との問いに、よくあ

る、ときどきあると肯定的に答えた児童については、A層が多く、D層が少ないのを赤の矢印で示しています。下段、「平日どのくらいテレビや動画を見たりインターネットを使ったり、ゲームをしたりしますか」では、4時間以上と答えた児童は、D層が多くA層が少ないという傾向が見られました。次のページも相関関係が見られると思われる項目をあげております。概要版に戻りまして、それをまとめたものが右下になります。説明は以上でございます。ご審議よろしくお願いたします。

新子教育長：ご意見、ご質問等よろしいでしょうか。

太田委員：各学校ではこのテストの結果をどのように活かしているか、お分かりになる範囲で教えてもらえますか。

小室課長：テストの結果は受けた個人に返っていくので、まずはご家庭に結果をお知らせします。学校には弱みと強みが記載された詳細版が業者から提供されるので、次の指導に活かしていると聞いております。

田中委員：個々の子どもたちに関するコメントもありますか。

小室課長：あります。

安田教育監：実施が12月ですので、教員が自分の指導はどうだったかをはかる資料にもしております。

太田委員：家庭での学習時間が短く、大阪府の平均より低いというのは、保護者の意識が低いのか、啓発が足りないのか、もう少し突っ込んで考えていかないと変わっていかないのかなと思います。

また、小学校の授業を見ていて、6人班で授業をしているところがありましたが、ちょっと人数が多いんですね。今は3人班や4人班でやるものだと思いますので、教員に対しても研修等できちんと授業の質を高める努力をさせる必要があるのかなと思います。

教員のことばかり言うのもなんですが、実際の授業を見てみると、班で話し合う時も、班の中でできる子がどんどん決めていって終わりといった場面が見られました。班でのミーティングの仕方のやり方は、新しい先生でも大学でやってきたら分かると思いますが、もう少し工夫が必要かなと思います。教育方法についてもどんどん新しくなっていると思いますが、柏原市はしっかりとついでいけているのかなと思います。

田辺委員：先日、班学習について子どもと話をしまして、班の中でやる気がある子はどんどん進めていきたいと思っているのですが、やる気のない子は水を差してくるので、結果として太田先生のおっしゃるように、やる気のある子がどんどん進めていくようになってしまっているそうです。これは小学校の低学年の話ですが、中学2年生の子どもに聞くと、理科の実験を7人でやるそうですが、3人はじゃんけんして遊んでいて、2人は何も考えてなくて、結局、残りの2人で実験をしたそうです。それに対して先生は注意するのと聞くと、最初は注意するけれども、それ以降は授業の態度として評価が下がる自己責任だからといったスタンスだったそうです。子ども同士も「あいつはそういうやつだから」といった認識になっているようで、せっかく一緒のクラスなのにそれは寂しいことだなと。そのあたり、どうにかならないかなと感じております。

西村委員：集団でしかできないことは色々あると思いますが、子どもが自主的にやるにはハードルが高くて、順繰りに役割分担をやってみて、自分にはこれが向いているとか、向いていないと思ってたけどやってみたらできたとか、経験を持たせてあげないと、班の意味を成さないのではないかと思います。子どもの自主性だけに任せる班はあってはならないと思いますし、3、4人の班でやるのが一番よいのかなと私もイメージするところです。

安田教育監：学力向上推進委員会でも個別最適な授業にしていかなければならないと考えており、令和の学校教育といったところで、授業のスタイルもどんどん変わっていているので、教員の意識改革もしていかなければならないと認識しているところです。

小室課長：主体的に学び、自ら考え、その思いや考えを表現できる子どもを育てるのが大きな目標で、ここ2年ぐらいは担当教員を呼んでタブレットを使った共同作業をする研修を行ったりしているところです。その研修で得たものを学校の隅々まで広げることがどこの市町村の学校でも課題となっているところです。委員会としてもどのようにしていくかを検討してまいります。

西村委員：あともう1点よろしいですか。学習習慣のことで、6年生のグラフで学校の授業以外で週にどれぐらい勉強していますかというものがありませんでしたが、A層とD層で分かれているというのはわかりますし、平日にどれぐらい勉強しますかというのもA層では4時間以上する子もいるということで、できる子は勉強するし、興味があるからやっているというのもわかります。でも、学校の授業の予習復習をしていますかという項目になると、どの層もあまりしていないということは、学校の宿題ってどういう扱いなのかなと思いました。学習習慣として、どこを強くしていけばよいのかが課題なのかなと。学校の授業を主体にするのか、そうではなくて、できる子はできる内容をもっと伸ばして、そうでない子はそうでない内容に重きを置くのかといった部分に課題があるのかなと感じました。

小室課長：やはり授業主体かなとは考えますが、皆様から頂戴したご意見を学力向上推進委員会の方に伝え、さらに検討してまいります。

新子教育長：他にご意見、ご質問等よろしいでしょうか。

委員全員：なし。

新子教育長：ないようでございますので、議案第3号について、原案どおり承認してよろしいでしょうか。

委員全員：異議なし。

新子教育長：それでは、議案第3号令和6年度かしわらっ子はぐくみテストの結果の公表内容については、原案どおり承認することにいたします。続きまして、議案第4号につきまして、指導課小室課長より説明をお願いします。

小室課長：議案第4号令和6年度中学生チャレンジテスト（1、2年生）の結果の公表内容について、指導課よりご説明申し上げます。別添の冊子をご覧ください。まず資料についてですが、全国学力状況調査と同様に、A4横の「結果概要」とこれまでのように詳細を記した冊子を、「結果に関する参考資料」として作成しました。市民に向けて公開

することを前提に考えた場合、よりシンプルでわかりやすいものを、との意図で作成しております。なお「結果に関する参考資料」は、概要版の下に記したQRコードやリンクから見るようにいたします。

それでは、まず概要版を使って説明いたします。調査目的及び調査対象学年はこれまでと変わりはありません。1年生は、500名弱、2年生は400名強の受験者数となります。1年生ですが、国語、数学は大阪府を上回っています。前年度までの1年生との比較では、国語以外は上回っております。2年生の結果ですが、国語、社会、理科で大阪府の平均を上回る結果となりました。前年度までの2年生との比較では、社会以外の教科で下回る結果となりました。

右にアンケート結果から見えた、強みと課題を載せています。強みとしては「多様な考え方、他者との協働、挑戦心等において、肯定的な姿勢をもっている」「大事な部分や要点を意識して文章や資料等を読み取ろうとしている」「短時間であっても日常的に読書をする機会がある」、課題としては、「▼授業中にタブレット端末を活用して協働的に学ぶ機会が少ない」「▼日常的にスマートフォン等をゲーム・SNS等に使う時間が長い」といったものが挙げられます。

続いて、特徴的な質問項目をいくつか挙げております。「スマートフォンやタブレットを使っている時間」は府と同様の結果ですが、3時間以上使用している生徒が5割を超えているのが気になるところです。

一番下は、結果概要になります。参考資料をご覧ください。1ページは概要版で説明した内容になります。2、3ページは各教科の設問別結果になります。4、5ページは強みや課題の見られる問題についてのせています。選択式の問題で、誤答に偏りがある場合は、反応率を掲載しております。6から8ページは各教科の設問別結果になります。英語の「書くこと」「短答式」「記述式」の問題に課題が見られました。また、80点以上の上位層の割合が小さいことも課題です。9から11ページは1年生同様、強みや課題の見られる問題についてのせています。12ページからは、生徒アンケートの結果になります。全11問全て載せています。

表の見方についてご説明いたします。①は、大阪府との比較、②は肯定的回答の割合、③は1年次との比較になります。表の見方ですが、府との比較では、+10ポイントが◎、+5ポイントが○、-5ポイントが▽、-10ポイントが▼になりますので、質問番号4は10ポイント以上下回っているという結果になります。また、肯定的回答については、90%以上を◎、80%以上を○、50%未満を▽、20%未満を▼になりますので、質問7は90%以上の肯定的回答という結果になります。そして、最後に昨年調査との比較では、+5ポイントを○、-5ポイントを▽で示しております。項目でみると、問4が上昇しています。

教育委員会としましては、本結果からわかることを学力向上推進委員会等を通して、学校に周知し、学力向上の取組みを進めてまいります。報告は以上でございます。ご審議よろしく申し上げます。

新子教育長：ご意見、ご質問等よろしいでしょうか。

太田委員：教員の指導力を高めるための授業研究ということで、同じ教科の先生が集まって同じ授業を見て、意見を交換するといったことはありますか。また、前にも言いましたが、13ページ目、授業中にタブレットを使って意見を交換する場面があるかという質問について低い結果が出ていますが、1つの回答を皆で共有して考える場面はあっても、一人ひとりがタブレットを使って意見を書く場面というのは少ないように思いますが、授業の中でタブレットを使って意見を交流する場面というのはありますか。

小室課長：まず、授業研究については教科別で行っています。学校内だけでは教科担当の数も少ないので、他校を交えて行っていると聞いています。また、タブレットを使った意見交流ですが、小学校で意見交流にタブレットを使っている場面を見たことがあります。とはいえ、実際は少ないと思います。

太田委員：タブレットは使っているけれども、意見交流といった場面は少ないと子どもたちは捉えているのかなと思います。工夫が必要だと思います。

小室課長：ありがとうございます。検討いたします。

新子教育長：他にご意見、ご質問等よろしいでしょうか。

委員全員：なし。

新子教育長：ないようでございますので、議案第4号について、原案どおり承認してよろしいでしょうか。

委員全員：異議なし。

新子教育長：それでは、議案第4号令和6年度中学生チャレンジテスト（1、2年生）の結果の公表内容については、原案どおり承認することにいたします。続きまして、議案第5号でございますが、人事案件ですので、非公開にて審議したいと思いますが、よろしいでしょうか。

委員全員：異議なし。

新子教育長：それでは、議案第5号令和7年度柏原市立学校園管理職人事については、非公開といたします。議案の審議に入ります。学務課北野課長より説明をお願いします。

北野課長：（議案第5号について説明）

—質疑応答—

新子教育長：審議の結果、議案第5号について、原案どおり承認してよろしいでしょうか。

委員全員：異議なし。

新子教育長：それでは、議案第5号令和7年度柏原市立学校園管理職人事については、原案どおり承認することといたします。本日の議事案件は以上です。

（桐藤部長より学校プールのあり方に関する基本方針について報告）

以上で第3回定例教育委員会会議を閉会いたします。

本教育委員会会議の議事の経過に相違ないことを証するためにここに署名する。

令和 年 月 日

柏原市教育委員